# 2022 年度 未踏 IT 人材発掘・育成事業 採択案件評価書

## 1. 担当 PM

首藤 一幸（京都大学 学術情報メディアセンター 教授）

## 2. クリエータ氏名

阿部 優樹（北海道大学大学院情報科学院 情報科学専攻情報理工学コース）
辻口 輝（北海道大学大学院情報科学院 情報科学専攻情報理工学コース）

## 3. 委託金支払額

2,736,000 円

## 4. テーマ名

祭り運営を支援するアプリケーションの開発

## 5. 関連 Web サイト

temaneki ホームページ：https://www.temaneki.jp/

## 6. テーマ概要

祭り管理者がさっくりと手間少なく大勢のボランティアを管理できるスマートフォン・タブレット向けアプリケーションを開発する。これによって、管理者も祭りを楽しむ余裕を持てるようになる。また、管理者やボランティアが入力した内容を、次回の祭りへの継承資料として活用できるようにする。

また、実地でのテストを行う。

## 7. 採択理由

祭りを主なターゲットとして、イベントの計画、当日の運営、そして継承を支えるツールを開発しようというプロジェクトである。自分達で祭りを運営して、しかしその自分達は祭りを楽しむ余裕もなく奔走してきたクリエータ達である。その経験を踏まえて、ペーパープロトタイプでの実験、他の祭り運営者のインタビューといった準備を重ねて到達した提案である。

何よりも、自分達がさらに祭りを楽しむため、そしてその祭りを次代へとつなげていくため、ある意味真に社会を支えるツールと方法論を見出し、形にしてくれるものと期待した。

## 8. 開発目標

現実の祭りにて、管理者が大勢のボランティアをさっくりと手間少なく管理する。このアプリによる祭りの継承を達成する。実地テストを行う。

## 9. 進捗概要

祭り運営支援アプリケーション temaneki を開発した。現場での試用と、そこからのフィードバックを踏まえた開発を何度も何度も積み重ねて、祭り管理者、ボランティアを幸せにできるところまで到達した。具体的には、地図ベースの役割入力とその共有、ボランティアの希望を採り入れたシフトの自動作成や修正支援、ボランティアへの自動連絡などによって、管理者・ボランティア両方の労力、不満、また、離脱率を大きく減らした。

未踏の開発期間中だけでも、6 月北大祭の一部（20 人規模）に始まり、9 月 NoMaps 中のイベント（30 人規模）、11 月金葉祭（170 人規模）をはじめ、他にも多くのイベントを支え、そこで temaneki を試し、フィードバックを得てまた temaneki を磨き続けた。

## 10. プロジェクト評価

2 人の頭の中には、理想のアプリケーションがあるのではない。理想の祭りがある。そこにおいては、アプリの開発は目標でもゴールでもなく、ただの手段である。アプリは現実世界で効果を発揮してなんぼなので、アプリ開発はこうあるべきである。

プロジェクト初期の頃から、大人の言うことは「祭りだけでは対象が狭い。イベント一般を対象として汎用性を高めるのはどうか？」だった。私もそう考えた。しかし彼らは、祭り愛ゆえ、祭りファースト（というより祭りオンリー）を貫いた。汎用性はソフトウェアにとっても諸刃の剣で、応用先が広くなる利点と、逆にどこにも刺さらなくなる危険とがある。この阿部・辻口プロジェクトでは、少なくともスタートから当面の間は、祭りだけを見据えて磨き続けることが必要だったと考える。

## 11. 今後の課題

- さらなる現場での試用
- temaneki 開発・運用を経済的に持続させる方法